



# 八潮運輸株式会社

## 2021年 運輸安全マネージメント

2021.1.1

# 1.輸送の安全に関する基本方針

## ①八潮運輸の安全方針「安全は全てに優先する」

自社の乗務員、交通パートナーが、事故により尊い命を落とす事が無いよう、怪我する事がないように「安全は全てに優先する」を励行する。

②輸送の安全を確保するため、安全に関する取組みを定め、PDCAマネジメントで取組みをしっかりと実施する。また、創意工夫によりPDCAサイクルがスパイラルアップするような取組みを行う。

③改善基準告示遵守にむけて、運行管理者・乗務員に対する教育をしっかりと行い、拘束時間管理を徹底する。

④輸送の安全に関する情報等については積極的に公表する。

## 2.安全に関する目標

	2020年		2021年
	目標	成績	目標
人身事故	0件	0件	0件
労災事故	0件	0件	0件
物損事故	6件	25件	6件
無事故継続日数	100日	69日	150日
自動車事故報告規則第2条に該当する事故	0件	0件	0件

# 3.輸送の安全の為に過去行った取組み

項目	内容
運行管理	2002年 デジタルタコグラフ 全車に装着(矢崎製デジタルタコグラフ) 2004年 出発帰庫時の対面点呼完全実施 2006年 ドライブレコーダー 全車に装着(堀場アイテック製ドライブレコーダー) 2006年 アルコールチェックの完全実施(東海電子製アルコールチェッカー導入) 2011年 デジタコ・ドラレコの更新(矢崎製 常時録画のドラレコにより事故・ヒヤリ時の映像完全抽出) 2013年 改善基準告示に即した拘束時間把握の実施 2017年 IT点呼機器を更新 2019年 乗務員拘束時間把握クラウド型システム導入(ロジ勤怠) 2020年 乗務員による拘束時間管理表の導入(拘束時間の会社管理→乗務員自身による管理へ)
教育	2006年 年始に全体安全会議を開催(2011年より外部講師による安全講義も取り入れる) 2012年 年7回の乗務員教育を確立(12項目の安全教育を実施) 2012年 デジタコ・ドラレコを活用した個別指導実施 2017年 新人乗務員への特別教育の改変 2020年 社内運転マニュアルの整備
設備	2007年 バックアイカメラの全車装着(海コン車両を除く) 2011年 中柱一体型アオリの導入(中柱の脱着作業を無くす) 2012年 ボルボ車両のミラーステー改造(ミラーの死角事故を減らす) 2015年 ウイング車両のウイング開放インターロック装置導入(ウイングを開放したままの走行事故撲滅) 2017年 平ボデー車を無くす(全車両ウイング車にして、シート掛け作業時の労災撲滅)
その他	1992年 無事故表彰制度の導入 2001年 家族参加型の無事故表彰式・懇親会の開催 2004年 グリーン経営認証 取得 2006年 安全性優良事業所(Gマーク)認定 2012年 管理者による職場パトロールの実施 2017年 車庫監視カメラ設置(不審者の侵入を防止) 2017年 始業前点検完全実施システムの導入 2020年 外部コンサルタントによる運行管理レベルアップ講習受講(全6回)

# 4.2020年 輸送の安全に関する取組み・総括

取組み	総括
<p>①運行管理体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・運行管理体制をしっかりと確立し、責任者のもと事故撲滅を進める</li><li>・運行管理者に対する教育(外部コンサルタントによる)を行い、運行管理者のレベルアップを図る</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・運行管理体制を確立し、事故撲滅に取り組んだ。体制が確立する以前と比較すると責任を持って運行管理・事故撲滅に取り組みができるようになった。</li><li>・外部コンサルタントによる6回の講習を受講し、運行管理者のレベルアップに取り組んだ。(学んだ事の抜粋:曖昧な指示→具体的な指示、指示内容は短く簡潔に、全乗務員が共有できるルールづくり等)</li></ul>
<p>②日常点検の強化</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・日常点検に関する教育を実施し、始業前点検を完全実施する</li><li>・ドライブレコーダーで始業前点検をきちんとしているか抜き打ちチェックする</li></ul>	<p>出発前の日常点検がしっかりと行われているか?(特にタイヤ打検を重点チェック)をドライブレコーダーデータで全乗務員抜き打ちチェックを実施した。昨年は未実施者が多数見られたが、2020年は未実施者がゼロとなった。</p>
<p>③輸送安全の個人指導</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・1回/月の個人指導を行い、目標達成を目指す</li></ul>	<p>新型コロナウイルスの影響で対面での個人指導は4月までの実施とした。5月からは書面配布にて月ごとの重点指導項目を周知した。</p>
<p>④新人ドライバーへの指導</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・指導ドライバーの育成</li><li>・ワンマン乗務前後のフォロー</li></ul>	<p>新人ドライバーをどのように教育すれば良いか?が確立されていなかったため、「八潮運輸運転マニュアル」を作成した。新人ドライバーだけでなく、既存ドライバーにも周知してマニュアル通りの運転をできるように指導していく。</p>
<p>⑤安全パトロールの実施</p>	<p>週に1回、工場内のパトロールを実施。工場内で大きなルール違反は発見されなかった。引き続きパトロールを実施していく。</p>
<p>⑥安全会議の充実化</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・乗務員教育(安全12項目)の充実</li><li>・運行管理者会議</li><li>・安全衛生委員会(班長会議)をそれぞれ1回/月開催する</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・乗務員教育は新型コロナウイルスの影響により4月より延期した。</li><li>・月に1回の運行管理者会議で①～⑧の取組みのPDCAを回して取組みを前進させた。</li><li>・会社の取組みを安全衛生委員会で班長にもしっかりと伝え、班長を通じて乗務員からの意見も取り込む事ができた。</li></ul>

## 取組み

## 総括

### ⑦事故後の対応

昨年は事故発生後速やかに事故対策会議が開かれず、事故原因の究明・対策の立案・乗務員への周知が遅れたが、2020年は事故後速やかに事故対策会議を開催できた。また事故原因・対策を全乗務員に周知するために、書面で配布し個人ファイルに保存することとした。

### ⑧改善基準告示遵守

運行管理者会議にて改善基準告示遵守について討議し、様々な対策を立て、PDCAを回した。その結果、改善基準違反の運行がほぼゼロとなっている。(乗務員の改善基準ルールの理解が進んだことが大きな要因と考えられる)  
9月からは乗務員自らが「拘束時間管理表」に日々の拘束時間を記入して貰い、改善基準遵守が難しくそうな場合は管理者に発信してもらうようにした。管理者が拘束時間を管理するフェーズから乗務員自身による拘束時間管理へとレベルアップし、完全遵守にむけて取組みが進んだ。

2020年の運輸安全マネジメントは運行管理者会議を中心に進めた。この会議は運行管理に関わる者全員が参加し、運輸安全マネジメントの進捗を議論した。1か月に1回の開催となるため、次回会議までにPDCAを回す事を意識して様々な取組みが大幅に前進した。特に改善基準告示の遵守については、月間に100件以上あった違反がほぼゼロになるという成果を出す事ができた。

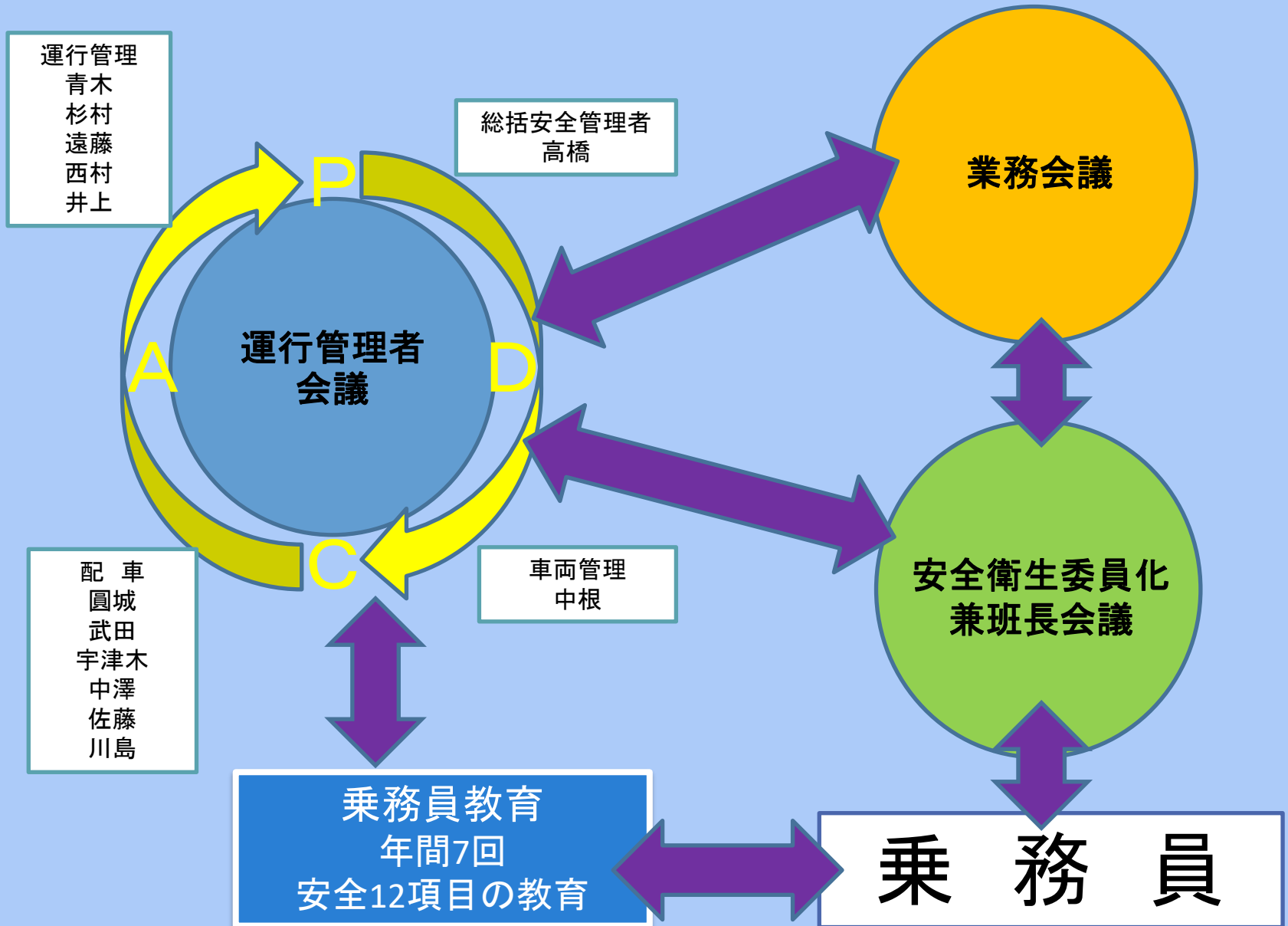
また、外部コンサルタントの指導により「八潮運輸運転マニュアル」を作成する事ができた。今までは曖昧に「交差点では注意しろ」という指導から「交差点では〇メートル手前で××と▲▲の安全確認をしろ」と誰でも同じ事ができるマニュアルとなった。2021年はこのマニュアルをドライバーに落とし込み、過去の類似災害がどの程度減るか検証してマニュアルの完成度を上げていきたい。

# 5.2021年 輸送の安全に関する取組み

取組み	担当者・狙い
①八潮運輸運転マニュアルをしっかりと周知する	担当者:高橋、圓城 ・責任者の明確化、責任者中心に事故撲滅する体制を構築する ・運行管理者のレベルアップのため、外部コンサルタントの教育を受ける
②ドライバーに対する教育(ウイズコロナの中) ・12項目教育 ・個別指導	担当者:田中、高橋、 運行管理責任者を明確化し、月ごとにしっかりとした個人指導を実施する事で類似事故の撲滅を目指す
③新人ドライバーへの指導強化 ・運転マニュアルを実践するための指導方法確立 ・ワンマン乗務前後のフォロー	担当者:高橋 ・教習所のように、新人の運転レベルがどこレベルにあるかを見える化 ・卒業検定時の確認内容確立
④車両整備の充実 ・路上故障ゼロ ・日常点検に関する教育を実施し、始業前点検を完全実施する ・ドライバーの車両に関する知識のレベルアップ	担当者:中根 ドライブレコーダーで日常点検が適正にされているか?を確認し、確実な日常点検の励行を実現する
⑤安全会議の充実化 ・運行管理者会議 ・安全衛生委員会(班長会議)をそれぞれ1回/月開催する	担当者: 運行管理者会議で運輸安全マネジメントのPDCAをしっかりと回す。またその内容をしっかりと班長に落とし、従業員の意見も取り入れる。
⑥八潮運輸荷役マニュアルを作成する	担当者:高橋、圓城
⑦事故後の対応	事故後に速やかに事故対策会議を実施し、原因・再発防止策を把握し、類似事故撲滅に繋げる
⑧改善基準告示遵守	運行管理者会議でPDCAを回して、改善基準の完全遵守を目指す

上記取組みがしっかりとされているかを月に1回の運行管理者会議で確認する

# 6. 運輸安全マネジメントの回し方





# 7.安全12項目の教育予定

項目	1月	2月	4月	6月	8月	10月	12月
担当		高橋	中根	牧迫・圓城 武田	中根	圓城	高橋
①トラックを運転する場合の心構え		○					
②トラックの運行の安全を確保する為に遵守すべき基本事項		○	○				
③トラックの構造上の特性		○					
④貨物の正しい積載方法				○			
⑤過積載の危険性				○			
⑥危険物 省略							
⑦適切な運行経路及び当該経路における道路及び交通状況					○		
⑧危険の予測及び回避(KYT)		○	○	○	○		
⑨運転者の運転特性に応じた安全運転						○	
⑩交通事故に関わる運転者の生理的及び心理的要因及びこれらへの対処方法					○		
⑪健康管理の重要性							○
⑫運転支援装置を使用した適切な運転方式			○				